

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

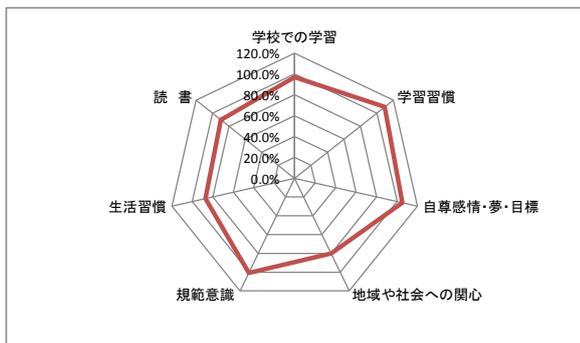
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	5年生のときに行った北九州市学力調査の結果から、大きく改善している。領域や問題形式に関わらず、全般に良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題	
	努力が必要な問題	漢字については、できている・できていないが分かれている。	
算数	全体的な傾向や特徴など	5年生のときに行った北九州市学力調査の結果から、改善している。領域や問題形式に関わらず、全般にやや低い正答率であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	棒グラフの読み取りや、四則計算の問題。	
	努力が必要な問題	図形の性質や構成要素に着目して図形を構成する問題や、数量関係から目的に適したものを見付ける問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ 「将来の夢や目標を持っている」「最後までやり遂げて嬉しかったことがある」と回答した児童の割合が全国平均を大きく上回っている。
○ 「算数の勉強が好き」「算数の学習はよく分かる」と回答した児童の割合が全国平均を大きく上回っている。
▼ 「朝食をあまり・まったく食べていない」「学校以外の読書時間が0」と回答した児童の割合が全国平均を大きく上回っている。
▼ 「学校のきまりを守っている」「地域行事に参加している」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で)

- ・朝のチャレンジタイムで、基本的な図表の見方・使い方の習熟を図る。
- ・自分で考え、話し合いで広げ深める授業づくりを目指し、全学級で授業研究に取り組む。
- ・放課後のがんばりタイムで、苦手や遅れを挽回する復習・習熟問題に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習や生活習慣の大切さについて、学校だより・保健だよりなどを通じてお知らせする。
- ・自学ノートの見本や、テーマの例を学年ごとに掲示・配布し、称賛と励ましを行う。
- ・保健学習や学級活動で自分の生活習慣を振り返り、自分なりのめあてを決めて実践する。